

最上地域の医療体制

平成 27 年 11 月 27 日

山形県最上総合支庁

最上地域の医療体制

【医療施設数】

- 平成 27 年 11 月 1 日現在、一般及び療養病床を有する医療施設数は、病院 4、有床診療所 3 と計 7 施設となっている。
- 平成 27 年 11 月 1 日現在の病床数は、病院 847 床、診療所 44 床の計 891 床（一般：779、療養：112）となっている。

【医療従事者数】

- 平成 24 年 12 月 31 日現在の人口 10 万対医師数（138.2 人）は、県平均（225.5 人）、全国平均（237.8 人）を大きく下回っている。
- 人口 10 万対歯科医師数（45.3 人）、同薬剤師数（127.2 人）、同看護師数（730.1 人）も、県平均（59.8 人、167.7 人、897.9 人）、全国平均（80.4 人、219.6 人、796.6 人）を下回っている。

【看護師：業務従事者届】

【医師、歯科医師、薬剤師：医師、歯科医師、薬剤師調査】

	医師（人口 10 万対）		歯科医師（人口 10 万対）		薬剤師（人口 10 万対）		看護師（人口 10 万対）	
	H22	H24	H22	H24	H22	H24	H22	H24
最 上	137.6	138.2	46.3	45.3	126.9	127.2	683.1	730.1
山形県	221.5	225.5	57.4	59.8	163.0	167.7	843.3	897.9
全 国	230.4	237.8	79.3	80.4	215.9	219.6	744.0	796.6

【地域の医療提供体制】

(1) 救急医療

- 救急搬送件数は、平成 24 年 2,762 件、平成 25 年 2,629 件、平成 26 年 2,802 件と増加傾向にある。
- 初期救急医療は主に新庄市夜間休日診療所（新庄市が医師会に運営委託）、二次救急医療は県立新庄病院を基幹病院として救急告示医療機関 5 施設が連携し提供している。
（救急告示医療機関 5 施設） → 県立新庄病院、最上町立最上病院、町立真室川病院、新庄徳洲会病院、町立金山診療所
- 救命救急センターがなく、重篤な患者に対する救急医療は、三次救急医療機関の県立中央病院、山形大学医学部附属病院、日本海総合病院が担い、一部は県立新庄病院で対応している。
- 夜間・休日診療患者の 5 割強が県立新庄病院に集中し、そのうち 8 割以上が診察後「帰宅」など、初期救急相当の軽症患者が多く、救急担当医の負担が大きくなっている。
- 平成 23 年 2 月「私たちとお医者さんを守る最上の会」が発足し、時間外受診の適正化、勤務医の負担軽減及び定着を目指し、自主的な活動を継続している。

(2) 周産期医療

- 分娩を扱う医療機関は、平成 22 年に新庄市内の 2 診療所が分娩をやめ、現在、県立新庄病院（30 床）のみ。
- 県立新庄病院の産科医師数は、平成 27 年度より 4 人となったが、平成 26 年度までは 3 人であり、平成 26 年の 1 人当たり分娩数が約 193 件と、適正と言われている 150 件を大きく上回っていた。
- 県立新庄病院は、二次周産期医療機関として比較的高度な医療に対応しており、リスクの高い分娩等については、村山地域の三次周産期医療機関へ転院・搬送を行っている。
- 県立新庄病院においては、ハイリスク分娩時等における情報共有を図る「山形県周産期医療情報ネットワーク」への接続が平成 26 年 4 月に完了し、同年 5 月下旬から情報連携が可能となった。

(3) 小児医療

- 小児救急医療については、夜間休日における初期救急医療は、救急告示医療機関（5 施設）、新庄市夜間休日診療所、一部の開業医（2 施設）が担っている。
- 地域における自己完結率※は 76.4%と、庄内地域の 72.2%に次いで低くなっており、一定数を村山地域に依存している。
- 「平成 24 年医師・歯科医師・薬剤師調査（H24.12 末）」では、小児科医 5 人となっており、人口 10 万対の小児科医は 50.6 人（県全体 97.4 人の 52.0%）で、県内で最も少ない状況にある。

(4) へき地医療

- 最上地域への県地域医療支援センターによる平成 27 年度医師派遣状況は、自治医科大学運営参画による地域医療従事医師または県修学資金貸与医師が、県立新庄病院 2 人、最上町立最上病院 1 人、町立真室川病院 1 人、町立金山診療所 1 人、大蔵村診療所 1 人となっている。
- 平成 16 年 12 月に県立新庄病院が「へき地医療拠点病院」となり、代診医の派遣など管内病院・診療所への医療支援を行っている。

(5) がん

- 地域における自己完結率は 80.7%で県内二次医療圏の中では最も低く、一定数の患者は村山地域の医療機関を受診している。
部位別で見ると、胃がん、大腸がん、直腸がんは 9 割以上が自己完結しているが、肺がん、乳がん、肝がんは 1 割以上の患者が村山地域の医療機関を受診している。
また、治療法別でも、化学療法（入院・外来）、放射線治療（入院・外来）とも一定数の患者が村山地域の医療機関を受診している。
- 地域がん診療連携拠点病院である県立新庄病院が中心となって、新庄徳洲会病院、最上町立最上病院、町立真室川病院と連携しながら、がん診療や在宅療養支援を行っている。

- なお、高度で専門的な治療は、山形大学医学部附属病院や県がん診療連携拠点病院である県立中央病院が担っている。
- 最上地域には緩和ケア病床を持つ病院はない。

(6) 脳卒中

- 地域における自己完結率は95.2%とほぼ地域完結している。
- 来院後1時間以内の専門的治療を行う急性期の医療機能を県立新庄病院、町立真室川病院が担い、この2病院のほか、新庄徳洲会病院、最上町立最上病院において、身体機能を回復させるリハビリテーションや日常生活への復帰及び維持のためのリハビリテーションを行う回復期・維持期の機能を担っている。

(7) 心筋梗塞

- 地域における自己完結率は93.2%とほぼ地域完結している。
- 来院後30分以内に専門的治療を行う急性期の医療機能を県立新庄病院が担い、県立新庄病院のほか、新庄徳洲会病院、最上町立最上病院、町立真室川病院において、身体機能を回復させる心臓リハビリテーションや再発予防を行う回復期・再発予防の機能を担っている。

(8) 透析

- 透析を行う医療機関は、県立新庄病院、新庄徳洲会病院、新庄クリニックの3施設となっている。うち夜間透析を行っているのは新庄徳洲会病院のみである。
- 透析患者は年々増加傾向にあり、平成26年284人、人工透析台数は113台となっている。また、人工透析1台当たりの患者数は、村山地域2.30人、最上地域2.51人、庄内地域2.69人、置賜地域3.29人、県平均2.54人となっている。

【地域医療連携】

- 平成25年3月に、県立新庄病院が保有する検査画像等を医療機関が閲覧できる情報ネットワーク（「もがみネット」）が稼働し、病病連携、病診連携、紹介・逆紹介の推進に寄与している。〔平成27年11月現在での参加医療機関数17施設〕
- がん（肺、胃、肝臓、大腸、乳）、糖尿病において地域連携クリティカルパスが運用されている。

※「自己完結率」は、(資料1-2)14頁~20頁に詳細が記されているが、「NDB(ナショナルデータベース)から、平成25年度1年間のレセプトを、患者住所地・医療機関所在地別に集計したもの」から、最上地域の医療機関におけるレセプト件数を最上地域に住所地がある患者のレセプト件数で除して百分率で表したものの。